

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 元東京天文台長事務取扱であった福見尚文氏の名刺発見**

駄文を書いて記事にならないかと出版系の居室である図書事務室を訪ねた際、こんな名刺が出てきたと図書室の方から古い名刺(写真1)を戴いた。名刺の主である福見尚文氏は大正11年(1922年)10月から昭和20年(1945年)10月まで東京天文台に在職の方で、昭和14年6月27日～昭和16年3月31日の2年近く東京天文台長事務取扱をされた方である。この期間は関口鯉吉台長が昭和11年(1936年)4月15日～昭和14年(1939年)6月27日の在任、昭和16年(1941年)3月31日～昭和21年(1946年)10月12日の在任の間のことであった。この間、台長事務取扱が置かれた事情はにわかには分からない。

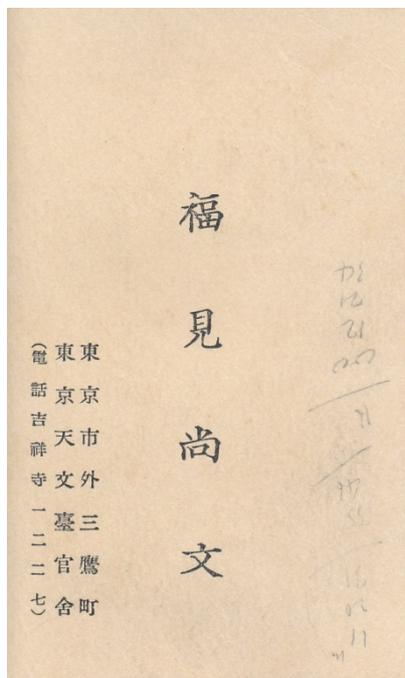


写真1 福見尚文の名刺

名刺にはアドレスとして東京市外三鷹町 東京天文台官舎 電話 吉祥寺 1227 とある。これだけで歴史を感じさせ、電話局が武蔵野三鷹局ではなく「吉祥寺局」であったことが分かり、東京が市であり、三鷹が町であったことも分かる。

福見氏は暦計算の人であったように思う。東京天文台90周年誌によると、大正11年(1922年)から昭和21年(1946年)3月まで編暦主任として神宮暦を編纂したとある。

他に筆者が興味を持ったことは天文月報第2巻第12号(明治43年(1910年)3月)に福見氏が「トレプトー天文台および同台長アルヘンホルト氏」という記事を書いていることである。ということは東京天文台に入る11年も前にこの記事を書いたことになる。トレプトー天文台は超巨大屈折第望遠鏡が建設されたことで有名で、平成21年(2009年)12

月に国立天文台でアーカイブスシンポジウムが開催された際、この望遠鏡について講演された方がいた。この講演をされた方は在野の天文研究家の野上長俊氏で、「Archenhold 天文台の一世紀」と題して講演をされ、この中でこの超巨大屈折望遠鏡の話をされた。これをきっかけに筆者はこの超巨大屈折望遠鏡についてアーカイブ室新聞に2つほど記事を書いた。1回目はこの超巨大屈折望遠鏡が雑誌に載っていたと知らせてくれたニュースで、アーカイブ室新聞（2010年1月21日 第276号）に「古い雑誌類など（科学画報、科学朝日など）の資料提供」という題で、小川誠治氏提供の資料に「科学画報 第7巻第3号 大正15年9月1日発行 9月号」に「トレプトウエル天文台」という記事があること、2回目はアーカイブ室新聞（2010年3月3日 第291号）に「萬有科學大系（昭和6年9月1日発行）にも載っていた超長巨大望遠鏡」という記事を書いた。この望遠鏡は非常に特徴的な望遠鏡で、天文月報の福見氏の記事の中には次の2枚の写真がある。

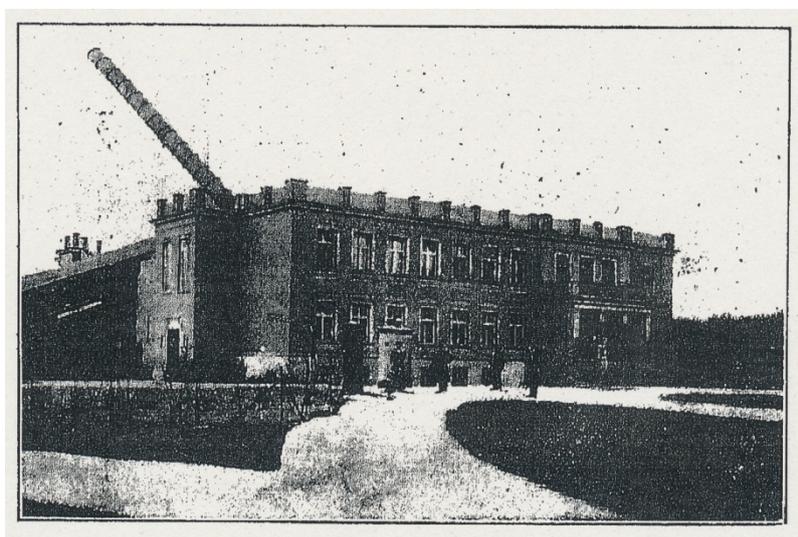


写真2 天文台の建物から突き出た超巨大屈折望遠鏡

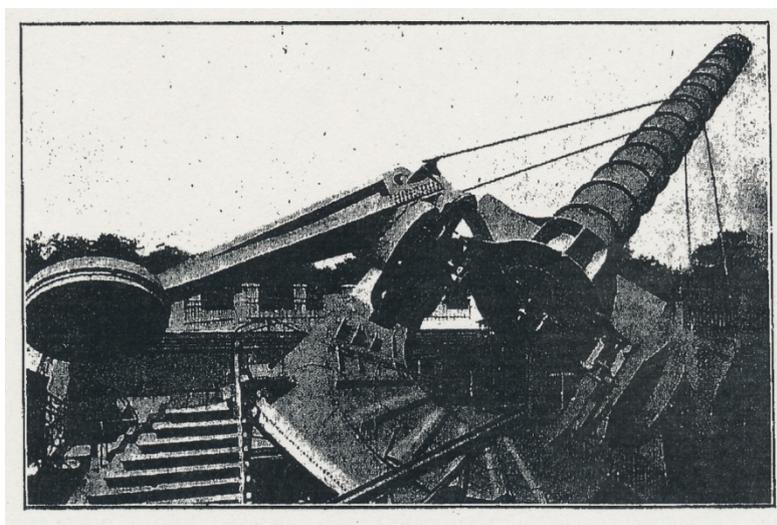


写真3 超巨大屈折アルヘンホルト望遠鏡

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp